

## 関西の景気ピックス【雇用関連（24年2月）】

- 24年2月の労働力調査（総務省）によると、近畿の完全失業率は3.1%（原数値）と、前年比で0.2ポイントの上昇となった。変化の内訳は、就業者数が前年比で11万人の増加となった一方、失業者は2万人の増加、非労働力人口は14万人の減少となった。なお、就業者数の増加は5か月連続で、失業者の増加は2か月連続。
- 一方、近畿の有効求人倍率（厚生労働省）は、24年2月は1.15倍（季節調整値）と前月比で横ばいとなった。22年末以降は緩やかな低下トレンドが続いている。
- 企業の深刻な人手不足に変化はないものの、有効求人倍率は緩やかな低下傾向が続くなど、雇用指標はそれに逆行する形で推移している。中小企業を中心とした経営環境の悪化で、人手不足ながら求人を出し渋る動きが指摘されている。雇用情勢の判断が難しい局面にある中、先行きへの警戒が必要と考えられる。

